



▶翔大君(左)の相談に乗る山口さん(右)

パーツを組み合わせてさまざまな立体を作れるレゴ。ロボットを組み立ててプログラミングで動かすタイプもあるのだとか。「草津05 (レゴ) 倶楽部」を主催する山口里美さんに話を聞きました。

2020年度から小学校で必修化が決まっている「プログラミング教育」。今でこそよく耳にしますが、大学の非常勤講師として科学技術を教える「理系女子」の山口さんは、いち早く子ども向けのプログラミングに注目。育児をきっかけにプログラミングのできるレゴブロックがあることを知り、それを使ったものづくりとプログラミングを体験できる「草津05 倶楽部」を12年前に開始しました。

主に小・中学生とその保護者が対象で、「一言でいうと親子の部活動。親も一緒に楽しんでほしいですね」と話します。

試行錯誤を喚起 自由な発想が面白い

取材の日は19組の親子が参加。床に敷かれたパネルの上で自作の「レゴロボット」を動かしている村上翔大君(草津市・小学6年生)は、くねくね曲がったラインの上を正確に動くようパソコンで何度も入力し直していました。「モーターの回転数を下げると動きが遅くなってラインを感知しやすけれど、遅すぎると坂を上るときにパワーが足りない」と説明してくる様子はまるで「ちびっこ博士」。山口さんに相談しながら精度を高めていきました。

今回が2回目の参加という西村衛(まもる)君(草津市・小学1年生)は、レゴのギアをたくさんつなげることに18個！「前回、モーターを借りて親子それぞれが車を作って競争したら楽しくて。今日はモーターでギアを回すことに着目してみました」と母の滋美(まさみ)さん。珍しい部品や資料がそろっているのもここならではの「年齢もやっていることも一人一人違うので、周りを見ながら『こんなこともできるんだ』『次はあれをやってみよう』など自分で情報を仕入れてほしい」と山口さんは話します。

「レゴ」の体験せ

今後は「プログラミングで飛ばせるトイドローンの体験会を開くなど新しいことも取り入れていきたい」とのこと。大人の記者も興味津々です。同倶楽部は月1回、土曜に草津市立まちづくりセンター(草津市西大路町9-6)で活動。次回は3月16日(土)午前9時30分〜正午です。参加費は子ども1人につき500円。詳細はホームページ <https://93205.jimd.com/> で確認を。

取材の日は19組の親子が参加。床に敷かれたパネルの上で自作の「レゴ